

平成26年度第3回図書館セミナー開催

医学図書館は、平成26年12月24日（木）16:40-18:00 アレスコ棟221 講義室で中根裕信先生（医学科解剖学）を講師に図書館セミナー「きくー 聴く・聞く・訊く・効くー」を開催しました。

今回のセミナーでは、脳脊髄液減少症について取り上げられている『「なまけ病」と言われて』という資料のお話をされました。この病気は、学校で転んで軽く頭を打ったことなどで脳脊髄液が漏れて減少するために頭痛やめまいなどの強い症状が出て、大人でも「生き地獄」といわれるほどつらいものだそうです。この病気の診断は難しく、脳脊髄液の漏れを調べるRI(放射性同位体)脳槽シンチグラムなどの特別な検査が必要になるそうです。『「なまけ病」と言われて』の中の、病気の症状に苦しんでいる中学生と保護者が、診断がつかないため「なまけ病」だと、学校の先生や友達、ついには医師にまでも非難されたというエピソードを紹介されました。（このケースでは、保護者が「脳脊髄液減少症」という病名にたどり着き、専門の医師の診断を受け治療を受けることができました。）

しかし、まだこの病気は社会の認知度が低く、多くの不登校のケースでは、他の病気として治療されたり、本人の心の持ち方の「なまけ病」として扱われている可能性があることを説明されました。セミナーの受講者は、患者さんや家族の「声」を注意深く聴くことの大切さについて考える良い機会になりました。

この他、模型・動画を用いて耳の構造・機能について説明があり、「きく」について理解が深まりました。

医学図書館ではより多くの学生さんに医学図書館を利用していただくために、今後もこのような企画を計画していきます。

<参考資料>

小児・若年者の起立性頭痛と脳脊髄液減少症 中川紀充編著 金芳堂, 2014.11
「なまけ病」と言われて~脳脊髄液減少症~ 三谷美佐子 秋田書店, 2013.4



医学図書館では常時人体模型の展示・貸出を行っています。
ご来館いただき実際に見て・触って学習にお役立てください。